

観音大学 2023 年度入学者選抜（春入学）  
(一般選抜)

## 小論文

次の文章は、「100 の思考実験：あなたはどこまで考えられるか」（ジュリアン・バジーニ [著] 向井和美 [訳]、紀伊國屋書店、2012 年）の中で、「公平な不平等 不平等が許される場合とは？」というタイトルで書かれたものです。文章の中には異なる立場が存在し、それぞれの立場に意見や主張があることに気をつけながら、この文章を読み、間に解答してください。

ジョンとマーガレットは息子たちへのクリスマスプレゼントを買いに出かけた。息子は三人で、マシューは一四歳、マークは一二歳、ルークは一〇歳だ。愛情深い両親は、三人をつねに平等に扱うよう心がけていた。今年のプレゼント用予算はひとりにつき一〇〇ポンド、とすでに決まっている。

今回の買い物には、なんの問題もなさそうにみえた。目当ての品物はすぐに見つかった。携帯式の“プレイボーイ”ゲーム機で、ひとつ一〇〇ポンドだ。ゲーム機三つをふたりでレジに持っていこうとしたとき、ジョンが店内に貼られたお知らせに気づいた。ひとつ一五〇ポンドの最新機能型“プレイボーイ・プラス・マックス”をふたつ買えば、オリジナルのプレイボーイ機が無料でもらえるという。払う金額は同じで、もっと上等の品が手に入るのだ。

「それはできないわ」マーガレットが言った。「不公平だもの。誰かひとりが、ほかのふたりより劣った物をもらうことになるのよ」

「でも、マーガレット」ジョンは息子たちから最新型のゲーム機を借りることを考えて、わくわくしていた。「どうして不公平なんだい？ もともともらえるはずだった物より劣る物は誰ももらわないし、三人のうちふたりはもっといい物をもらえるんだ。もしこれを利用しないと、ふたりはもらえるはずの上等な物をもらえなくなる」

「わたしは三人を平等に扱いたいわ」マーガレットが答えた。

「その結果、損をすることになってもかい？」

ジョン・ロールズ『正義論』川本隆史ほか訳／紀伊國屋書店／二〇一〇年

平等が望ましいことは多くの人が認めるが、何がなんでも平等を追求すべきだと思う人は、今ではほとんどいない。レベルを落としてまで平等を実現することには、何かしら偏屈なものを感じるからだ。みなを平等にするのは簡単で、社会の最下層の人と同程度に、全員を貧しくすればいい。しかし、そんなことをしても誰の助けにもならないのだから、これはあきらかにばかげているように思える。貧しい人は依然として貧しいままであり、ほかの人たちは損害を被る。

ただし、どんな場合でも平等を押しつけるのが有益とは限らないからといって、なんの疑問もなく、あらゆる不平等を受け容れるべきだということにはならない。問うべきは、どんな場合に不平等が認められるのか、ということだ。ジョンがマーガレッ

トに、息子たちを平等に扱わない理由を説明していたが、それはひとつの答えた。不平等が許されるのは、結果として誰も損をせず、何人かは得をする場合だ。

これは、アメリカの政治学者ジョン・ロールズが「格差原理」と呼んだものに、とても似ている。格差原理とは、要するに、もっとも恵まれない人の利益になる場合にのみ不平等を認めるというものだ。とはいって、これがマシューとマークとルークに当てはまるのかどうか、はっきりしない。そもそもとのプレゼント計画に沿っていれば、三人の状況はそれが損も得もしない、階級なき社会の縮図だった。ところが、プレイボーイ・プラス・マックスを手に入れることにすると、たしかにふたりは得をするが、そのことは、残りのひとりにとってはなんの慰めにもならない。とすればこの計画は、全体的に見て、もっとも恵まれない人の利益になっているとほんとうにいえるのだろうか？

当然ながら、政治の場合と家族の場合とでは、原則を当てはめる際に重要な違いが出てくる。社会全体でなら、ジョンの意見が直観的な説得力を持つように思える。しかし、家族となると、平等のほうに重きを置くべきかもしれない。なぜなら、ごく小さな集団においては、不平等はいっそう鋭く察知され、緊張を生みだしやすいからだ。

けれども、同じことは政治の世界でもたしかにいえる。不平等に反対する理由のひとつは、それがまさしく社会の団結力を損ねたり、貧しい人たちの自尊心を傷つけたりするからだ。社会心理学者たちが指摘しているように、人は、たとえ自分が物理的にはなんの損害も被らないとしても、もし隣人が経済的負担もなしに金持ちになったとしたら、心理的には貧富の差に対する意識が強くなつて、苦しむ可能性がある。したがつて、平等と不平等をただ物質的な側面からしか考えないと、政治の場合も家族の場合も、ひどい間違いを犯すことになりかねない。

ジュリアン・バジーニ〔著〕向井和美〔訳〕「100の思考実験：あなたはどこまで考えられるか」（紀伊國屋書店、2012年）、37-40頁。

### (問)

上記の文章では、不平等に関する仮想事例が示されています。実社会には多くの不平等に関する事例が存在し、事例を取り巻く環境や背景などにより、不平等が公平・公正と見なされる場合もあれば、公平・公正でないと見なされる場合もあります。

あなたが住んでいる地域や所属しているコミュニティにおいて、不平等に関する事例を1つ取り上げ、論じてください。

小論文の作成にあたっては、次ページの「作成方法」に沿って記述してください。

## (作成方法)

- ・ 次の「小論文のアウトライン」に示された順序で、各項目について記述してください。  
なお、各項目のタイトルの記載は、必須ではありません。
- ・ 解答用紙は、本学様式を使用し、A4サイズ2ページ以内（フォントサイズは10.5ポイント）で作成してください。ただし、参考文献リストはページ数に含めないものとします。

## (小論文のアウトライン)

項目	記載内容・作成のポイント
タイトル	解答用紙の記載に沿って、「小論文のタイトル」を記載してください。
はじめに（導入部）	小論文の主題や目的を説明し、何を論じるのか予告してください。
1) 地域やコミュニティにおける事例および現状と課題の説明	あなたが取り上げる具体的な事例について、データや資料を用いながら、現状と課題を示してください。
2) 課題をめぐる複数の立場の比較	1)で取り上げた課題について、複数の異なる立場を取り上げ、それぞれの意見や主張について、比較してください。
3) 課題に対するあなたの意見	1)と2)を踏まえて、あなたがどのように考えるのか記述してください。
おわりに（結論部）	「はじめに（導入部）」で示した主題や目的を振り返って、小論文全体をまとめてください。 ※結論部で新たなデータや主張を盛り込まないようにしてください。
参考文献リスト	参照した文献や資料、ウェブサイトなどを記載してください。 ※文献の記載方法については、様々なスタイルがあります。参照元がわかるように一貫した形でリストが作成されていれば、スタイルは自由とします。

**(評価基準)**

本学は、次の基準で小論文を評価します。

評価観点	評価基準	アドミッション・ポリシー
基礎的要件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指定の分量を守っているか？</li> <li>・ 指定様式を用いているか？</li> <li>・ 課題の指示に従っているか？</li> <li>・ 誤字脱字がなく、適切な文法を用い、読みやすい文章で書かれているか？</li> </ul>	—
姿勢・視野	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ テーマに関連した適切な事例を取り上げ、データや資料を用いて、現状と課題を説明できているか？</li> <li>・ 取り上げた事例について、複数の異なる立場を取り上げ、それぞれの意見や主張を適切に比較できているか？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幅広い視野</li> <li>・ 国内外の様々な文化、歴史、社会や国際関係への強い関心と探究心</li> </ul>
学力・表現力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 異なる立場や意見、主張を踏まえたうえで、自らの意見を述べることができているか？</li> <li>・ 論理的で説得力のある小論文となっているか？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的な学力</li> <li>・ 学ぶ意欲</li> <li>・ 将来を見据え、目的意識を持って学修に取り組もうとする姿勢</li> <li>・ 他者と積極的にコミュニケーションを行う姿勢</li> </ul>
意欲	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会にある課題を適切に捉え、自ら取り組んでいこうとする意欲があるか？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自らの能力の向上を目指す意欲</li> <li>・ 社会貢献意欲</li> <li>・ 自ら先頭に立ち、他者を巻き込んで様々な課題に取り組もうとする姿勢</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 独創性と創造力</li> </ul>	—